

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野の4領域において、指導教員への任用を促進し、学生が選択する研究テーマの広がりに対応できる研究教育組織を構築する。	→指導教員の追加任用（2013年度までに1名）。	C
2. 担当の見直しを行い、上記4分野の教員が、「キリスト教神学・伝道者コース」ならびに「キリスト教思想・文化コース」の双方を担当することを分かりやすく明示する。	→担当者を含めた履修モデルの作成と公開（WEB等の広報媒体への掲載、履修指導への反映[心得に掲載]）（2013年度までに作成・公開）	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

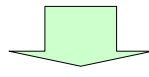
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目4.0.1	(現状説明) 神学研究科の教育研究組織については、4構成（領域）に適切な担当者を置いており、伝統的な神学の領域の教育・研究と、新たに展開したキリスト教思想・文化領域の教育・研究という、本研究科の理念・目的に照らして適切なものであると言える。
☆ 小項目4.0.2	(現状説明) 教育研究組織の適切性について、2010年度学則改正に向けたカリキュラム精査の過程で検証を行った。また定期的には、毎年度の自己点検・評価を実施するに際し、自己評価委員会（研究科）・学部長室委員会で検証している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	



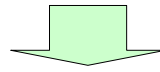
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目4.0.1	研究演習を担当する教員が、すべての領域において複数ある状態になっておらず、学生の選択する研究テーマに制限がある。
★小項目4.0.2	各履修コース、各領域の履修について、学生の中に理解が十分でない。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目4.0.1	指導教員の任用を行う。
★小項目4.0.2	各領域の履修モデルを策定し、周知する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○研究演習体制の充実が期待されます。

【学内委員】

○理念・目的の検証と絡んで、組織の適切性については絶えず検証が必要です。

○改善すべき事項の小項目4.0.2における「学生の中に理解が十分でない」という部分は意味が不明確です。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	改善すべき事項の小項目4.0.2について、神学研究科では2008年度に初めて履修コース制を導入したが、2つのコース（キリスト教神学・伝道者コースおよびキリスト教思想・文化コース）の学びと4つの領域（聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野）の学びがどのように関連性をもってカリキュラムに反映されているのか、未だ周知が不十分であると認識している。これについては履修モデルなどを提示することにより、学生へわかりやすく説明する努力が必要である。
---	--

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

--	--

<個別的な指標>

--	--